

## 1歳のお誕生日に麻しんのワクチンを！！ (麻しん0プロジェクト)

2003.10.01

麻しんと聞いて皆さんはどんなことを考えますか？軽い病気と考えている方はいませんか？麻しんははじめの2～3日は熱や咳、鼻水、目やになどいわゆるカゼと似た症状が続きます。いったん熱が下がったあと再び高熱となり、同時に全身に発疹が現れます。発疹が現れてからも、4～5日高熱が続きます。

麻しんウイルスは感染力が非常に強く、発疹の出る4日前から人に感染する力を持っています。麻しんにかかった子どもの約3割が肺炎や脳炎、中耳炎などの時として生命を脅かすような合併症にみまわれます。重症の麻しんの92%がワクチンを受けていない子どもで、このうち1歳未満が27.9%、1～3歳が36%、3～8歳が20.2%と報告されています。最近の日本では、年に10～20万人が麻疹にかかり、数十人が亡くなっているのが現状です。1999年に麻しんが原因で死亡した子どもは29名で、0歳児が10名、1歳児が13名でした。麻しんがその昔「命定め」といわれていたことを実感できる数字ではないでしょうか。

病院を受診した平成12年生まれの子どもの麻しんワクチン接種率を調べたところ、18ヶ月までに接種が終わっている子どもは約82%、2歳までに終わっている子どもは約85%でした。少なくとも24ヶ月までに95%以上の接種率が保たれないと地域で麻疹が流行してもおかしくない状況と考えられていますので、函館地域ではいつ麻しんの流行があっても不思議ではないといえます。現に今年も中学生が主体でしたが小流行があり、そのほとんどが麻しんワクチン未接種児であったと聞いています。

8月の終わりに全国の小児科医の有志が集まって「麻しん0プロジェクト」の会議があり熱い議論に参加してきました。そこで「あらゆる手段を使って1歳児の麻しんワクチン接種率を95%以上に」などのアピール文が採択されました。麻しんは予防接種を行うことで制圧ができる病気です。「1歳のお誕生日のプレゼントに麻しんワクチンを」この合い言葉の下に、麻しん0プロジェクトは進んでいきます。自分の子どもをそしてまだワクチンが出来ない小さな赤ちゃんを麻しんから守るために、行動してくれませんか？ワクチンは7歳半まで無料で出来るのですから。来年小学校に入学するお子さんがいる家庭では、ぜひまだ終わっていないワクチンがないかどうかをこの機会に確かめてください。

現在はMRワクチン(麻しん・風疹混合ワクチン)に替わり、1才から2才までの間に1回、小学校入学前の1年間に(年長さんの時に)1回の2回接種に変更になっています。2006.10.06